

日本原子力学会 標準委員会 基盤応用・廃炉技術専門部会
第105回廃止措置分科会 (R3SC) 議事録

1. 日時 2025年12月4日（木） 9:30-12:00

2. 場所：Web会議（Webex）

3. 出席者：

(委員) 岡本主査、杉山幹事、青井、石原、工藤、黒川、小山、佐藤、高橋、竹野、
田村、鳥居、仲田、中村、西村、平井、見上、矢谷
欠席：日黒副主査、田中

(常時参加者) 佐々木、佐藤、杉村、高塚、瀧谷、深井、松居、湊

4. 配布資料

R3SC-105-1 人事案件

R3SC-105-2 第104回廃止措置分科会議事録（案）

R3SC-105-3-1 標準5か年計画の見直しについて（研究炉と使用施設）

R3SC-105-3-2 Excel資料：5か年計画（研究炉と使用施設）

R3SC-105-3-3 標準5か年計画の見直しについて（電力事業者）

R3SC-105-3-4 Excel資料：5か年計画（電力事業者）

R3SC-105-4-1 実用発電用原子炉施設の廃止措置時の耐震安全の考え方：20XX
の本文改定案について

R3SC-105-4-2 実用発電用原子炉施設の廃止措置時の耐震安全の考え方：20XX
の本文改定案（新旧対比表）

R3SC-105-5 放射線遮蔽設計法に係るワークショップの準備委員会メンバーの
選出について

5. 議事

(1) 一般事項

① 18名/20名の回答により分科会成立を確認した。日黒副主査は岡本主査宛て、委
任状を提出していた。

② 次回分科会は、1月9日の14:00～（オンライン開催）

(2) 前回議事録確認 [R3SC-105-2]

特にコメントなし

(3) 【審議】標準5か年計画の見直しについて [R3SC-105-3-1, -2, -3, -4]

- 担当の委員からR3SC-105-3-3及び-4を基に、電力事業者の意向として計画見直
しの説明があった。
- 日黒副主査がまとめた研究炉と使用施設の5か年計画の方針 (R3SC-105-3-1)

を杉山幹事が読み上げた。

- 各標準の見直し案について、次のとおりとすることが委員の賛成多数で可決された。
 - ✓ 基本安全基準、発電炉の計画策定基準、安全評価基準については、2027年又は2028年に改定要否の判断を行う。
 - ✓ 廃止措置の実施については、2024年改定時期であったが、当時不要と判断した。2029年に改定要否の判断を行う。
 - ✓ 試験研究炉等の廃止措置計画標準については、2024年度に改定不要と判断した。2028年度又は2029年度に改定要否の判断を行う。
- 耐震については、実現性を確認するための解析を含む検討が必要であるため、1年延期とすることが電力事業者から提案されたが、基本方針を遅滞なく発行することを優先すべきとの意見が出された。今回の改定は技術レポートの内容を追加、肉付けするものであり、現状の耐震標準の方向性を変更するものではないため、時間をかけずに発行が望まれること、附属書とする建屋の終局耐力を用いた解析等は時間を要するため、追補版などで時差をもって対応することができるのではとの意見が出された。発行期日の延長の可否は重要であることから、今回審議ではペンドィングとすることになった。
- 特性調査、インベントリ評価指針、作業立案指針の3指針については、発電炉計画策定基準の改定に合わせて附属書（参考）として取り込む方向とすることが委員の賛成多数で可決された。
- 基本安全基準の解説の技術レポートについては、着手しておらず、また、当該基準に含まれている解説の部分を補強する事でも対応は可能であることから、計画から消去することが委員の賛成多数で可決された。
- 火災防護基準については、その重要性は認識するもの、耐震の優先度に比べて低いので、エクセルからは一旦削除する。ただし、他の標準の附属書として整備するなど、火災防護指針の検討は分科会において継続することが委員の賛成多数で可決された。
- 議論の最中、常時参加者の専門部会幹事に確認した結果、1月15日までに廃止措置分科会の考え方や検討方針をまとめておくこと、3月10日にその結論を申し出ればよいと伝えられた。
- 上述のこともあり、主査と委員の意見を5か年計画の資料に反映して、次回の廃止措置分科会（1月9日14:00～）で、再度、議論することとなった。その結果を、専門部会に送付することとなった。

(4) 【審議】耐震安全の考え方：2013本文改定案について [R3SC-105-4-1, -2]

- 担当の委員からR3SC-105-4-1, -2に基づき耐震安全の考え方の改定方針、スケジュール、本文改訂案等について説明があった。
- 岡本主査から以下のようないい意見が出され、次回再度検討することになった。
 - 5mSvを超過した場合の対応に検討が引きずられている。
 - 本文には運転段階のSクラスの同等の措置をとる、それに廃止措置段階の状

況を考慮した評価が可能といった記載を追加し、具体例を附属書（参考）に示すこととしてはどうか？

- 終局耐力の評価が組み込まれなくても、耐震標準としては機能するのではないか。終局耐力の評価を行うために1年延期となることは容認できない。
 - 終局耐力の適用については、その検討が進んだときに耐震標準に組み込む対応としてはどうか？
 - 次回分科会（1月9日14:00～）で再度議論を行う。なお、5ヵ年計画は1月専門部会には検討中として報告可であるが、3月標準委員会には報告が必要である。
- (5) 【審議】放射線遮蔽設計法に係るワークショップの準備委員会メンバーの選出について [R3SC-105-5]
- 電力事業者からの選出することで、電力事業者間で調整する。本件についても次回分科会で再度議論を行うこととなった。

以上